

気付きの質を高める授業実践

2年「野鳥の森大すき」

竜美丘小学校 鈴木 由佳

○気付きの質を高める手立て

- ・共通の遊び（ゴムパチンコ）を教材とし、気付いたことをお互いに情報交換する場を設定して、問題を解決したり、情報を共有したりすることができるようにする。

○実践

自分のゴムパチンコが出来上がると、もっと飛ぶようにしたいと意欲を高めていった。もっと飛ぶようにするための「ひみつ」を見つけることができるように、試す時間を十分にとった。その後、各自の気付きを共有するために、よく飛ぶひみつを話し合う場を設定した。初めはゴムパチンコだけに目が向いていたが、距離を競う場合と対象物を倒す場合、的に入れる場合とでは、その目的によって飛ばすものも変えたほうがよいことに気付くことができた。また、ゴムについては、太さや材質にかかわらず、引っぱった分だけ元に戻ろうとする力が強まるため、木の強度とゴムを引く強さによって、飛ぶ距離が決まってくることに気付くことができた。その後、もう一度作り直す時間を設け、試していく中で、子どもたちはこれまでの気付きを確かなものにしていった。



○成果

一つの遊びに絞ったことにより、話し合いを焦点化し、気付きを共有することができた。そうすることによって、楽しいという感覚的な遊びから、質の高い遊びへと発展させることができた。

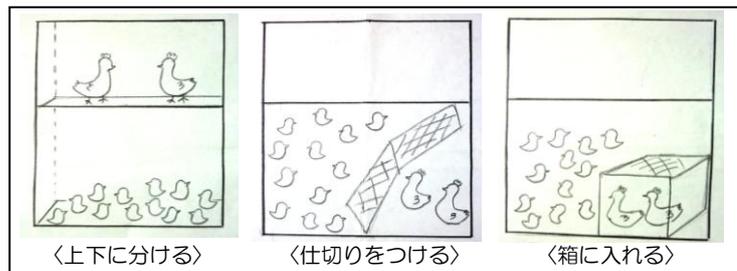
2年「2の2のなかま ウコッケイとアロウカナ」 矢作西小学校 北川 真衣

○気付きの質を高める手立て

- ・比べる視点を明確にして、視覚化して話し合い活動を行う。

○実践

ヒヨコだったウコッケイとアロウカナを屋外の飼育小屋に移すことにしたが、すでに小屋で飼われている大人のウコッケイと縄張り争いをしてしまった。そこで、子どもたちから、「別々にして小屋に入れる」という意見が出された。しかし、どのように小屋を分けたらよいのか、子どもたちは悩んだ。この「？」（課題）を解決するために、何度も飼育小屋へ足を運び、ウコッケイたちにとって一番よい分け方は何かを考えた。子どもたちが考えた分け方を大きく分類すると、上記の3つになった。話し合う際、このように図に表し、視覚化したこと



によって、分け方の違いがとらえやすくなり、自分の立場を明らかにして話し合うことができた。また、自分たちが育てているウコッケイやアロウカナだけではなく、大人のウコッケイの気持ちになっても考えなくてはいけないことにも気付くことができた。

○成果

比べる視点を与えて話し合うことによって、自分の考えを確かめたり、深めたり、見直したりすることができた。